



国立大学法人
和歌山大学

和歌浦湾をフィールドとした セーリング競技支援のための センサー情報統合サービス基盤の研究開発

セーリング競技のライブ中継などの運用支援や選手育成支援のために位置情報や風向・風力情報を活用することを目的として、各種センサー情報を統合して管理できるサービス基盤の研究開発をおこなっています。セーリング競技に最適なロケーションである和歌浦湾を実証評価のフィールドとして取り組んでいます。

背景

平成20年、和歌山セーリングセンターが、セーリング競技のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点に指定されました。トップレベル競技者の競技力向上を図る施設として、効果的な選手育成・強化が求められています。そのためには、競技中の選手、艇に関する客観的なデータを低コストで収集し、それを選手に即座にフィードバックできる仕組みが必要です。

和歌山大学では、地元企業、NPOと協力して、無線センサーネットワーク技術を応用したセーリング競技支援システムの研究開発に取り組んでいます。

技術課題

●収集した多様なセンサー情報を有効活用できていない
GPS受信機を用いて艇の航跡を記録したり、風向・風速の記録をとるシステムはこれまでも幾つか開発されています。しかし、多様なセンサーから集めた情報を適切に管理し、競技運営や選手育成のために有効活用しようとする取り組みは、まだほとんどありません。そこで、多様なセンサー情報（位置、速度、風向、風力など）の

- 【取得技術】どのようなセンサー情報を取得するか
- 【配信技術】取得した情報をどうやって集約するか
- 【解析技術】集約した情報からどうやって必要な情報を抽出するか
- 【共有・可視化技術】抽出結果をいかにわかりやすく表現するか

の技術課題の解決が必要です。

